

黒いはだをしており、大きな水しょうをすう
はいしている月の山の王の話。シュロの木で
ねむる緑のだいじゃがいて、二十人のそうり
ょがはちみつのおかしを食べさせている話。
広く平らな葉に乗って大きな湖をわたり、い
つも戦争しているピグミーの話。「かわいい
小さなツバメさん」王子は言いました。「あ
なたはおどろくべきことを聞かせてくれた。
しかし、苦しみを受けている人々の話ほどお
どろくべきことはない。小さなツバメさん、
町へ行っておくれ。そしてあなたの見たもの
をわたくしに教えておくれ」ツバメはその大
きな町の上を飛びまわり、金持ちが美しい家
で幸せにくらす一方で、こじきがその家の門
の前にすわっているのを見ました。暗い道に
入っていき、ものうげに道をながめている空
ふくな子どもたちの青白い顔を見ました。橋
の通りの下で小さな少年が二人、おたがいに

だき合っで横になり、あたため合っていました。「おなかがすいたよう」と二人は口にしていたが「ここで横になってはいいかん」と、けいかんがさけび、二人は雨の中へとさまよい出ました。それからツバメは王子のところへもどって、見てきたことを話しました。「わたくしの体はじゅん金でおおわれ